

食べることから「住吉」を知ろう!!

～食肉と被差別部落について～

被差別部落の仕事のひとつに、死んだ牛や馬の解体・処分というものがありました。古い文献によると、かつて住吉地区には「草場」と呼ばれる死牛馬を解体・処分する権利書のようなものがあつたそうです。

「死=穢れ」という考え方から、被差別部落の人たちは「穢れている」という悪いイメージによって差別されてきました。

被差別部落である住吉地区においても、あらゆる差別に反対する取り組みから、住吉総合福祉センター（総セン）や住吉診療所などが作られていきました。

そのような歴史のあるまち「住吉」で、昔から食べられていた①「さいぼし」というお肉の料理をご紹介します。「さいぼし」とは馬のお肉を燻製にしたものです。

現在は、馬のお肉が少なくなってきたため、牛のお肉で作られることもあります。

食べ方は、写真のように薄く切って、ショウガ醤油や一味などお好みの味付けて食べられています。燻製する時に塩で下味をつけているため、そのまま食べてもお肉の味が感じられておいしいです。

「さいぼし」の他にも、最近、テレビなどでも紹介され、少し有名になってきた②「あぶらかす」や、牛のスジ肉をとその出汁を使って作る③「煮ごり」などがあります。

昔は被差別部落以外の地域ではほとんど食べられることがなかったそうです。また、お年寄りの方のお話では、こうした料理を食べていることを被差別部落以外の地域の人に話してはいけない、と言われていたそうです。それだけ差別の厳しい時代だったことがうかがえます。

2022年は、被差別部落の人たちが厳しい差別とたたかうための「全国水平社」が結成されてちょうど100年目となります。

私たちライフサポート協会の法人理念である「すべての人が尊敬される社会の実現」の源流も、「全国水平社」による「水平社宣言」にたどることができます。



宣言

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴迎者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者とその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によつて、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讚するものである。水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光りあれ。

たいしょうじゅういちねんさんがつみつつか
大正十一年三月三日

ぜんこくすいへいしやそうりつたいかい
全國水平社創立大會